令和３年度　恵那北小学校だより　3月20日号

げんきたっ子

故郷のよさを引き継ぐ巣立ちの春

伊地知みゆき

朝、徒歩で通学する子どもたちとバス通学の子どもたちを迎えるのが私の日課でした。久須見方面は、毎日見守りボランティアの町野千城さんと市川昭司さん方が子どもたちを待っていてくださいました。お顔を拝見し挨拶をすることが楽しみでした。姫栗から来る子たちは毎年6年生が上手に連れてきてくれます。そして決まってバス停の掃除をしてくれ、校舎へ向かっていきました。

３月笠置橋から猪狩山を望む

木曽川に架かる笠置橋を歩くと、四季折々の変化に富んだ素晴らしい景色が見渡せます。春は薄桜色と若草色の山々にふわふわの綿菓子のような霞がかかり、夏は真っ青な空と目に眩しい川面に朝日が照り返し、秋は暖かい色合いの手編みのセーターのような紅葉が広がり、冬はきらめく銀色の雪景色。

伝統のボランティア活動
「バス停の掃除」

そんな自分たちの生まれ育った故郷の自然を知ってか知らずか子どもたちはお喋りに花を咲かせながら歩いてきます。笠置橋上では子どもたちの登校時の「道草」を一緒に楽しみました。集合場所から拾ってきた石ころを川底の大きな岩にめがけて投げた朝。橋の中央で皆でジャンプして橋の揺れを体感した朝。ハローウインの頃に橋のほぼ全ての欄干に出現するクモの巣が朝露にきらきら輝いていた朝。つるつるに凍った橋をスケートのように滑りながら歩いた朝。真っ白に積もった雪の上に野生の動物の足跡が残っていた朝。。。

笠置橋の春夏秋冬を児童会活動のイベントにできないか真剣に考えた時もありました。朝だけ限定の景色もあり、実現は叶いませんでしたが、いつか子どもたちが企画し「笠置橋イベント」として開催できたら楽しいだろうなあと妄想しています。

令和3年度の6年生17名がこの春本校を巣立っていきます。ここ数年で最も人数が多く、元気で賑やかな学年でした。明るい挨拶の声を響かせてくれました。寂しくなります。部活動や授業で忙しくなっても、時々周りの素晴らしい景色をゆったり眺め、自分の生まれた場所、生活している場所を誇りに、大きく成長してほしいと願っています。

今年度もコロナ対応を始め、様々な学校の教育活動に、保護者を始め、たくさんの地域の方々のご協力とご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。これからも子どもたちが故郷を愛し、故郷を大切に思える生き方ができるように温かく見守ってください。